

ふれあい放水路

お知らせ

平成23年度までの工事
工事はここまで進んでいます

開削部左岸農道が直線道路になりました

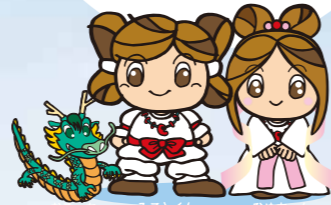
特集

歴史から防災を学ぶ
数十年に一度の災害に向けて

2012 平成24年
ふれあい放水路

vol.198

Izumo Office of River
Chugoku Regional
Development Bureau



分流堰建設工事

分流堰本体のコンクリート打設を昨年で完了し、分流部の全容が見えてきています。現在は、県道出雲三刀屋線の供用に向けて、橋梁の床版工事を行っています。

お知らせ

開削部左岸農道が直線道路になりました

今年度工事を行っていた斐伊川放水路菅沢地区河床整備外工事において、開削部左岸側の農道を直線化する工事を進めてきました。

放水路工事における土砂を残土処理場へ運ぶため、車両通行用の函渠（道路の下を通過するコンクリートのトンネル）を設置していた都合上の措置でしたが、このたび道路の直線化工事が完了し、迂回していた道路が直線となりました。これにより見通しが良くなり、より安全に通行できるようになりました。

快適な通行が可能になりました。



数十年に一度の災害に向けて

■近代以降例がない大津波

東日本大震災からおよそ一年が経ちました。津波による大きな被害をもたらしたこの震災での教訓となったのが、過去の東日本での震災・津波被害を改めて考察することです。記録が残る過去最高の津波は1896年の明治三陸津波でした。それから百年以上が過ぎています、数十年から数百年の視点で見なければ分からないことも多くあります。

■幾度も水害にみまわれている斐伊川流域

斐伊川の洪水の歴史で最も古いものとして確認されているのは、『出雲村誌』にある「養老年中(712~723)」に出雲に大洪水があり、久木村、直江村付近で大災害があったと土師天神社伝に記されている」とあるものです。

その後の記録から、斐伊川流域は度々洪水被害を受けていますが、記録から多くの死傷者を出した大洪水は、およそ数十年に一度の間隔で起こってきたことがわかります。また一度洪水が起これば数年に渡って続いて起こる傾向にもあります。

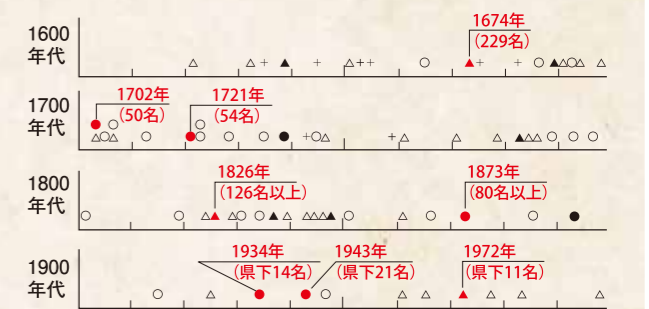
昨年は震災、洪水などによる大きな被害が頻発しましたが、自然の脅威を長い歴史で振り返れば、いつかは必ず起こることは間違いない自然災害に対して、過去の教訓を活かし備えることが求められます。

また来年は大きな被害をもたらした昭和47年水害から40年という節目の年です。改めてその経験や教訓を伝え、活かしていくことが大切です。



歴史から
防災を学ぶ
防災意識を
高めよう

■1900年代までの記録に残る洪水被害



※○は台風期、△は梅雨期、●▲は大洪水、+は不明・その他
※括弧内の人数は記録として確認できる大洪水の死者数 (出典:斐伊川誌より)



昭和9年(1934)室戸台風 出雲市斐川町 昭和39年(1964)山陰北陸豪雨 雲南市加茂町



出雲市斐川町 出雲市平田町 昭和47年(1972)水害



国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所

〒693-0023 出雲市塩冶有原町5-1 tel (0853) 21-1850 / fax (0853) 22-7829

E-mail : izumo@cgr.mlit.go.jp ホームページ <http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/>

平成23年度までの工事 工事はここまで進んでいます!

平成23年度の放水路工事は、皆さまのご理解とご協力により、順調に進みました。
今号は、今年度完了した工事および新規発注工事を中心に進捗状況をご紹介します。

大社～神戸地区

① 河口部の護岸整備を進めました。



② 境橋下流の両岸で築堤箇所の地盤整備を進めました。



● 長浜

● 大島

開削部

⑦ 開削部合流部の洗掘対策として、護床工整備を進めました。



⑧ 開削部左岸農道の整備を完了しました。



⑨ 開削部を安全に流下させるための河床保護工事を進めました。



⑩ 分流堰本体および県道橋整備を進めました。



分流堰

⑪ 宇那手川の樋門整備が完了しました。



⑫ 県道出雲三刀屋線の整備を進めました。



高松～古志・塩冶地区

③ 神戸橋付近の築堤、河道整備を進めました。



④ 合流部導流堤の築堤、護岸の整備を進めました。



⑤ 新宮川上流部の堤防整備に伴う橋梁、樋門道路の整備を進めました。



馬木、朝山地区

⑥ 市道整備が完了しました。



凡 例	
通行可能な道路	
堤 防	
構 造 物(橋梁など)	
写真の撮影場所と方向	